

E V E N T R E P O R T

平成20年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年 谷川 貴紀

総合研究大学院大学（以下、総研大）の博士後期課程にこの4月に編入した筆者にとって、総研大生としての初めての行事が入学式とこの学生セミナーであった。本セミナーは前年度入学生が企画する「学生による学生の為のセミナー」であり、これには全専攻の新入生及びスタッフが集まる為、バラエティー豊かな人材で構成され個性に溢れた内容となっていた。

今年度の本セミナーは「Wa」という言葉をキーワードに「我」「話」「和」という3つのテーマが用意された。「我」は自分の専門を異分野の者（以下、他者）

にわかるように説明するという自己表現のスキルが、「話」は自分と他者の間に生ずる知識の溝を配慮し協調し合うという相互理解のスキルが各々求められた。また、「和」は他者同士で新しい科学の可能性を探るというセッションであった。

筆者は本セミナーを受講して、研究者としての考え方や在り方を改めて考えさせられ、有意義な時間を過ごせた。「我」というテーマでは他者に自分の専門を簡潔に理解させた上で興味を持たせる話術の重要性を、「話」では他者と接するにあたり自分の専門外の知識を

持つことの重要性を各々考えさせられた。「和」では新しい科学を発掘し付加価値を生み出すには自力だけでは困難であり、他者とバランスのとれた幅広い知識を持ち合い歩み寄ることでその可能性を感じた。

本セミナーで得た経験を今後の研究生活に活かすことでより精進していきたい。

Takanori Tanikawa

兵庫県立大学物質科学研究科修士課程修了後、平成20年に総合研究大学院大学物理科学研究科に編入。分子科学研究所極端紫外光研究施設加藤グループにて、新方式の短波長自由電子レーザー光源の研究開発に従事している。



物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程2年 小野木 寛

4月2日の入学式に続き、今年も平成20年度学生セミナーが開催されました。今年のテーマは「Wa」。これは漢字の「我、話、和、輪」を意味し、「我を表現し、仲間と話し合い、力を和せて、分野を越えた大きな輪を創って欲しい」という願いが込められています。

始めに、国立科学博物館の小川義和先生より、サイエンスコミュニケーションについてご講演いただきました。つづいて一風変わった自己紹介を行いました。他分野の人に自分の専門を伝え、理解してもらうのは予想以上に困難で、もどかしさを感じた新入生も少なくな

かったようです。

夕食後には、美容整形や携帯電話など、身近で一般的なテーマについて班ごとに議論し、その内容を4コマ漫画で発表してもらいました。出来上がった作品は、説得力がある上に個性的で、会場には笑いが絶えませんでした。

最後に、言語脳科学を研究されている酒井邦嘉先生より、他分野へ進出する喜びや、苦労についてご講演いただきました。それにつづき各班で、班員の専門を融合したプロジェクトを立案し、その内容を発表してもらいました。学問の枠にとらわれない自由な発想が

生まれ、分野を越えて一つの目標に向かう事を体験できました。

私たち実行委員にとっても、このセミナーを創りあげるうえで、いつしか自分たちの中に大きな「Wa」ができ、とてもよい経験であると共に、大切な思い出になりました。

Satoru Onogi

名古屋大学理学部化学科を卒業後、平成19年に総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻へ入学、現在5年一貫制博士課程2年。分子スケールナノサイエンスセンター櫻井グループにて、非平面共役分子バックキーボウルのひとつ「スマネン」に、窒素や酸素などの「ヘテロ原子」を導入する研究に取り組んでいる。



## 冬の学校

物理科学研究科構造分子科学専攻 5年一貫制博士課程4年 北野 健太

私は修士課程1年の時から計3回冬の学校に参加しました。最初の年は、全日程がほぼ2人の講師による授業で構成され、時間をかけて基礎的な内容を重点的に説明されていました。学会やシンポジウムの講演とは異なり、まさに“学校の授業”という印象で感銘を受けたのを良く覚えています。年々スタイルは変わってきていますが、“学校”的なエッセンスが引き継がれていて、例えば今年のカリキュラムでは選択受講制の講義が良かったと思います。受講の様子に関しては、私も含めて少

し消極的な印象を受けました。各国の生徒が集まって同じ授業を受けることができる貴重な機会ですので、受講生がもっと積極的に発言し、生徒間のディスカッション等が活発に行われればより良い授業になると思います。

授業以外での国際交流に関しては、毎年参加される？ お決まりのメンバーもいて、また去年、今年と担当研究室だったこともあり、知り合いをたくさんつくることができました。その中の数人とは時々研究経過などを連絡し合っており、今後も互いに影響を与

え合える仲にできればいいなと考えています。ちなみに、3年前に知り合ったタイの学生は、3人中2人がアメリカ留学中、一人は今夏オーストリアに留学予定とのことで、「やるなあ！」と一方的に刺激を与えてもらっている状況です。私も負けられないようがんばります。

## Kenta Kitano

京都大学大学院理学研究科化学専攻修士課程を修了後、平成19年に総合研究大学院大学構造分子科学専攻入学、現在博士課程2年。光分子科学研究領域光分子科学第一研究部門大島グループで、分子の回転波束制御に関する研究に取り組んでいます。



## The impression notes of the Student Seminar

物理科学研究科構造分子科学専攻 5年一貫制博士課程4年 Md. Abu Sayed

The Academic exchange sessions FY2007 held on 18<sup>th</sup> march 2008, at Shonan Village Center, Hayama. About 35 *Sokendai* students, including former students joined in the exchange session from different countries of Asia and Europe. On the day in lecture season Dr. Riikka Lansialmi (Head of the Japanese Language section, Dept. of Japanese & Korean studies, Leiden University, The Netherlands) talked about language, economy and globalization, and Prof. Zhenfeng Xi (College of Chemistry, Peking University, China) presented his present research activity. They also

shared their memorable *SOKENDAI* life with us.

In separate meeting, I attended Dr. Akira Kinjo presentation, titled “Bioinformatics of protein structure”. In this season, *SOKENDAI* president Dr. Kodaira Keiichi also joined with us. Dr. Akira Kinjo in his lively presentation, he talked about his research activity from graduate study to present day. It was difficult to understand the computational technique for protein study in his lecture, although my work is relating to protein.

In exchange reception, we talked about poster and exchange

our ideas as well as research experience. The academic exchange sessions also make a platform in social communications among students. I was very happy to make some new friends in this day.

It was a short program, but it was very helpful for mental growth of young scientists. Finally, I would like to thank *SOKENDAI* authority to make such exchange sessions.

## Md. Abu Sayed

I joined Prof. Urisu group as a doctoral student in Oct. 2005. For my graduate study, I am constructing a new IR system for observing adsorbed biomaterials on solid surfaces under water.



総合研究大学院大学 <http://www.soken.ac.jp/>

総合研究大学院大学（総研大）は1988年に、全国の大学共同利用機関を基盤機関として、新しい理念と組織の下に創設された博士課程だけを有する大学院大学です。本部を神奈川県葉山町に置き、学生のみならず研究者自身の総合性と学際性を高めることを目指して、学生セミナー、国際シンポジウム、共同研究等々のユニークな活動を本部で行い、平素の授業や研究活動は各基盤研究機関において行っています。

